

【審判員研修】TRAUM CUP派遣審判員参加レポート

氏名	廣末存果	所属	岡山県
期間	2023年3月5日～3月9日		

3月5日	<p>17:15分ごろ鹿島アイビーホテルに到着しました。夕食をとり、本研修の開校式が行われました。事前アンケートの結果からU22年代の課題として「判定基準」「表現すること」「マネジメント」「ポジショニング」があげられました。開校式では、4グループに分かれディスカッションを行い、他地域の審判員の判定に関する考え方を知ることができました。今回の研修の目的は地域のトップカテゴリーを担当するレフェリーに刺激を与えることである、ということの名木INSから説明があり、そのためにはここでえた経験を今後トップを目指す上で活かしていかなければならないと実感しました。</p>
3月6日	<p>午前中は大会概要の説明を行いその後、「シグナル」について名木INSからディスカッションを交えた講義がありました。どのようにシグナルをしたら自分が一番大きく見せるのかを自分たちで動画を撮りながら最適なシグナル方法を話し合いました。午後の第1試合中央大学B1対流通経済大学の前半A1、後半主審を担当しました。イエローカードのシーンでは午前中に講義していただいた「5秒出す」が実践でき、効果的なカードになったと思います。試合後、インストラクターの方から「選手の目的」をレフェリーが考えポジションを取るというアドバイスをいただきました。</p>
3月7日	<p>関西学院大学対中央大学のA1を担当しました。主審は関東所属の審判員で、ハイレベルの試合でしたが落ち着いてコントロールし、無事にゲームを終えることができました。両チームの展開の速さについていくことに難しさを感じ、ラインキープのコツを試合後にアドバイスをいただきました。また、大会運営の面では不備等が多くあり、明日からは連携ミスをなくすことを審判員で話し合いました。夜のミーティングでは、同級生で集まり現状報告と地域の状況を報告し合いました。仕事をしながら審判活動をしている審判員や毎週ハイレベルな試合を担当している審判員がおり、「負けてられないな」と感じました。</p>
3月8日	<p>拓殖大学対東海大学熊本の試合の主審を90分担当しました。初日に講義があった「シグナル」について意識的に「5秒」行い、振り返りではインストラクターの方にシグナルがきれいだったとお褒めの言葉をいただきました。初日の課題であった「選手の目的を考えポジションをとる」部分では、中盤の争いに巻き込まれてしまうこともありましたが、多くの場面で良い距離感、角度で事象を見ることができました。課題としてはペナルティエリア内への侵入回数を増やすこと、パブリックに表現することがあげられました。</p>
3月9日	<p>最終日はホテルをチェックアウトし、試合会場へ向かいました。東京国際大学対中央大学の試合の前半主審を担当させていただきました。4勝で優勝の可能性のある東京国際大学のゲームを担当するにあたり、特に表現することを意識しました。ゲーム展開は一進一退で同点で前半終了となりました。振り返りでは昨日よりパブリックに表現できているとお褒めの言葉をいただきました。最後になりましたが、本大会に推薦していただきありがとうございます。今回の研修会で得た経験を地域に還元します。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。</p>



【審判員研修】TRAUM CUP派遣審判員参加レポート

氏名	藤本歩	所属	山口県
期間	2023年3月5日～3月9日		

3月5日	
<p>17時頃鹿島アイビーホテルに到着しました。夕食をとり、開校式が行われました。開校式では、自己紹介や今研修でのテーマなどが発表がされました。私は最年少ということもあり、とても緊張していましたが先輩方が温かく見守ってくださったおかげで緊張もなくなりました。今研修では、「判定基準、表現すること、マネージメント、ポジショニング」この4つのテーマで研修に臨みました。沢山の意見を聞き明日のレフェリングに生かせることもありとてもいい経験になりました。</p>	
3月6日	
<p>午前中は名木INSIによるシグナル、カードの出し方などを学びました。私は名木INSIによる講義に感銘を受けました。普段何気なくやるシグナルも角度、シグナルの長さで印象、試合の安定感が変わることを知りました。カードの出し方では正対してカードを出すのか、半身の状態を出すのかでも選手、観客にも印象が変わることを知りました。この日、私は後半45分のレフェリーを担当しました。シグナルに意識がいき、いつもよりも走る幅が狭くなってしまいました。</p>	
3月7日	
<p>この日は、90分×2本のアシスタントレフェリーを担当しました。他地域のレフェリーの方々のレフェリングを見て、選手とのコミュニケーションの取り方、タイミングなどたくさんを学びました。夜になると、他地域の審判員のその日のレフェリングや事象など見て、意見交換をしました。そのなかで、今研修の4テーマは全て繋がっていて、たくさんレフェリングに生かされることが分かりました。</p>	
3月8日	
<p>この日は、90分の主審の割り当てを頂きました。2日目の自分のレフェリングの反省や、昨日の他のレフェリーのレフェリングから学んだことを90分で表しました。シグナルの美しさ、カードの示し方、選手とのコミュニケーションの取り方など、自分の学んだことを生かしてとても満足いく90分になりました。インストラクターの方からもスプリントや運動量やその他の部分でも高く評価していただきました。</p>	
3月9日	
<p>最終日はアシスタントレフェリーを担当しました。レフェリーを担当出来ない悔しさもありましたが、アシスタントレフェリーとしてもシグナルであったり意識することはレフェリーと変わらず、学ぶべきことがたくさんありました。今研修に参加させていただき、地域で活躍するためのヒントを沢山持って帰れました。他地域のレフェリーに負けないように活躍していきたいです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。</p>	



【審判員研修】TRAUM CUP派遣審判員参加レポート

氏名	中本 万虎平	所属	鳥取県協会
期間	2023/3/5～2023/3/9		

2023/3/5	<p>8:30岡山県の廣末氏と岡山空港で合流。9:45岡山空港発～11:00羽田空港着。11:40羽田空港でさらに山口県の藤本氏と合流。11:45羽田空港内のレストランで昼食。13:10羽田空港発～15:30東京駅着。15:40東京駅発高速バス～17:10鹿島セントラルホテル前着。17:30宿泊先の鹿島アイビーホテル着。18:30～夕食。20:00開校式 まず各地から集まった審判員・インストラクターの自己紹介を1人ずつ前に出てやってきました。終始和やかな雰囲気でした。そして大会規定の確認、この研修の意義と意味を再確認しました。そして次の日の割り当てが発表されました。次に「表現のすること」「マネジメント」「判定基準」「ポジショニング」の4つのうち、自分がいま一番課題だと思うことを選び、グループに分かれて話し合っていました。自分は「マネジメント」だと思ったので「マネジメント」を選びました。他地域の審判員の意見がどんどん出てきて、終始圧倒されていましたが、自分なりの意見も出すことができたかなと思います。</p>
2023/3/6	<p>ホテルから鹿島ハイツに移動し、9:00から開校式があり、次にJFA名木氏から「シグナル」についての講義がありました。そのシグナルは誰に伝えようとしているのか、どういう意図があってそのシグナルをしているのか、果たしてその場面での適したシグナルなのかを、地域から参加された1級インストラクターの方と他地域から参加したU22審判員を交え意見交換をしました。その後、各グラウンド(A・B・C)に分かれて、13:30からの試合を担当しました。関西学院大学B1vs東京国際大学を担当しました。変則的で、前半45分が主審、後半45分が副審を務めました。鹿児島県の1級ins浜田章治さんに試合を見てもらいました。「最低限、プレーの10ヤード以内で見よう」「動きが基本に忠実すぎるから、基本を外れてでも事象を見に行こう」「笛が遅いので声が上がってしまっている」とアドバイスをいただきました。そして、夜の研修では、運営と試合の振り返りをしました。主審として試合前からどういう立ち振る舞いをするのか、SPAからラフかを判断する基準の整理、どういうファウルがやられている選手に熱が入るのか、実際の試合のシーンを使って話し合いました。自分の中ですごく身になった話し合いです。</p>
2023/3/7	<p>7:30に宿舎を出発し、7:55に鹿島ハイツに到着し、9:00からの試合の審判員は試合に向けての準備、11:00、13:00、15:00からの試合のメンバーは、運営や必要に応じてご飯を摂るなどしました。私は、15:00からの試合であったので、午前中は主に運営を担当し、午後から自分の準備に入りました。試合では、FWが走り始めるタイミングがつかめないうことで遅れるシーンがあって不必要なスプリントを掛けなければいけなくなってしまうことが課題として指摘されました。しかし、1日目と違って選手がファウルの基準にほぼほぼ納得していた点は改善できたことだと思いました。また、審判員を観察するときに単純なファウルorノーファウルではなく、なぜその事象を見れていたのか考えながら観察しようといわれました。</p>
2023/3/8	<p>宿舎を7:30に出発し、7:55に鹿島ハイツに到着し、前日と同じような試合日程でした。自分のグラウンドでは1試合目と3試合目しか行われなかったため、2・4試合目の時間はプラクティカルトレーニングをして頂きました。試合では、「最終ラインでのビルドアップはバックステップで開きくさびを主体的に見る。回す選手はチラ見でOK。」「まずは判定した事実を伝える。それ以上異議を言うのなら警告。」「前半序盤にアシスタントサイドに入ることはその後の試合を円滑に進めるためにも非常に効果的になってくる。」ということをお話して頂きました。プラクティカルトレーニングでは、宮島一代1級審判インストラクター(JFA審判委員会副委員長・Jリーグ審判マネージャー)から副審のプラクティカルトレーニングをして頂きました。</p>
2023/3/9	<p>最終日は、前日と同じく、宿舎を7:30に出発し、7:55に鹿島ハイツに到着し、9:00～と11:00～の2試合でした。私は11:00からの試合の副審90分を担当しました。試合中、名木利幸1級インストラクターから、「反対エンドのコーナーキックを監視するときは横で幅を取るのではなく、縦で角度をつけなさい」と指導して頂きました。最後に閉校式がありました。名木インストラクターから「間違いなくあなた達は、将来のトップレフェリーになる可能性のある一員。ここで学んだことを、今後君たちがトップレフェリーの階段を登っていく上での糧にしていきましょう。もちろん審判員としてだけでなく、社会人として仕事の面や私生活で生かして整えていきましょう。」とお言葉をいただきました。最後に愛知県の服部氏から「まずは、指導して下さったインストラクターの方々、スポーツマネジメントの方々、5日間ありがとうございました。ここで学んだことを地域に持ち帰って、自分にだけでなく地域にも還元していきたいと思いました。そしてJや国際のピッチに立ちたいと思います。」とU22審判員を代表して言葉を述べてくれました。</p>
まとめ	<p>まずは、このような素晴らしい大会を開催して下さったスポーツマネジメント様、会場で現場運営をして下さったスポーツマネジメント岩崎様・井上様、この事業を開催して下さったJFAの皆様、指導して下さったインストラクターの皆様、そしてこの事業に派遣して下さった鳥取県・中国サッカー協会審判員会の皆様、その他この大会・事業に携わって下さった皆様に感謝申し上げます。実際に運営の仕事をする中で、「審判員は運営スタッフの一員なんだ」「普段運営してくれているスタッフさんへの感謝」を再認識することができました。その中で厳しいことをスポーツマネジメントの方から指摘されることもありましたが、それは審判員という立場だけではなく、私生活・仕事においてもつながってくるなと思いました。今後の私生活でも生かしていくとともに、審判員としても自分に生かしていきたいと思いました。またここで学んだことを、自分の審判活動にも生かし地域に還元していき、地域のサッカーレベル向上に少しでもつなげていきたいなと思いました。</p>

